

17 着衣着火

【関連章第6章3】

事例2 「カーボンヒータに着衣が接触し、負傷者が発生した火災」

出火時分 2月 8時ごろ

用途等 共同住宅 耐火造 14/0 延 37,000 m²

被害状況 建物ぼや1棟 着衣9枚焼損 傷者1人

概要

この火災は、共同住宅の7階居室から出火したものです。

出火原因は、使用中のカーボンヒータに着衣が接触し、出火したものです。

居住者は、暖を取るためにカーボンヒータに背中を向けて立っていました。しばらくすると背中に熱を感じ、確認すると着衣に火が点いているのを発見しました。

火災を発見した居住者は、そのまま浴室に向かいシャワーを使って水をかけ、初期消火を行いました。

初期消火を行った後、自身の携帯電話から119番通報し、火災があったこと、火傷を負ったことを伝えました。

教訓等

着衣着火による火災は毎年発生しており、直接着衣が燃えるため、年齢に関係なく死傷する確率が高く非常に危険です。最も件数が多いのはガステーブル等ですが、電気ストーブやロウソクの火に着衣が接触し、出火している事案もあります。

ガステーブルや露出したヒータを持つ電気製品等を使用する際は、マフラーやストールを外し、袖が広がっていたり裾がゆったりとした服は避け、距離を保ちながら使用しましょう。

また、可燃物等が接触しないように周囲の整理整頓を心掛け、その場を離れるときには火や電源を消しましょう。



写真 17-3 台所付近の状況



写真 17-4 焼損した着衣の状況